

大学の世界展開力強化事業(2019年度選定) 東京外国語大学 取組概要

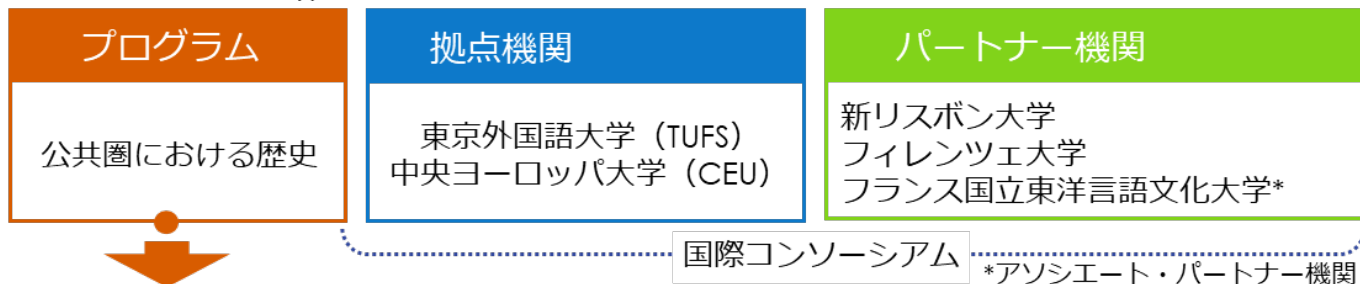
【事業の名称】(選定年度2019年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

【交流推進事業の概要】

目的 学術視点で歴史的知を創出し、実践に架橋できるグローバルな日欧専門人材を育成する

概要 拠点機関を中心に国際コンソーシアムを構築し、ダブル・ディグリー (DD) プログラムを運用する体制の構築



歴史 (過去) を正しく知ることは、今 (現在) を理解し、将来 (未来) を創ること

応用歴史学を通じた過去と現在の理解

4つのテーマ

包摂と排除 視覚的表象 記憶の制度化 グローバルな文脈の歴史

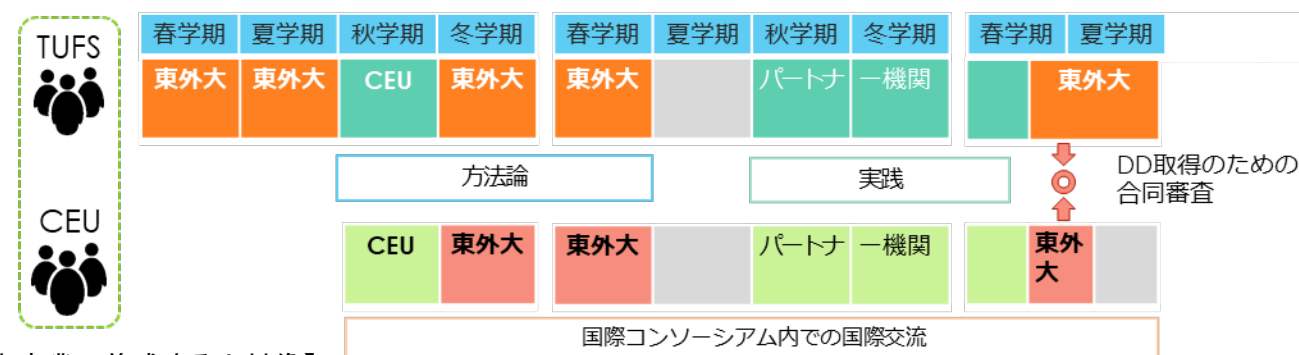
方法論
(理論)

現地体験
(実践)

国際交流
(価値の創造)

地域を移動し、学習する

【交流プログラムの概要】



【本事業で養成する人材像】

公文書館、博物館・美術館、ジャーナリズム、放送メディア、デジタル・メディアのために歴史的知を生成、翻訳、伝達する分野で活躍することが期待されるほか、国際協力、国際ビジネス、地域活性化、観光業など、広い範囲で専門的知に基づく、公共的な価値としての歴史を現代社会に生かすことができる人材を養成する。

【本事業の特徴】

国際コンソーシアムの各機関での学習、研究に加え、文書館・美術館・博物館等でのインターンシップの機会を提供することにより、当プログラムで目指す人材像を育成する。また、学生は拠点機関からのダブル・ディグリーの取得に加え、パートナー機関を含むマルチプル・ディグリーの取得が可能である。

【交流予定人数】

	2019	2020	2021	2022	2023
学生の派遣	0	8	8	8	8
学生の受入	0	8	8	8	8

1. 取組内容の進捗状況(2019年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



コンソーシアム・ミーティング(2020年2月開催)

・本事業の初年度である2019年度においては、学内の事業推進体制及びコンソーシアム体制の構築を行った。10月～12月にかけて、本学の本事業担当教職員がEU側拠点大学を訪問してコンソーシアム構築に向けた協議を行い、1月には連携4大学によるコンソーシアム協定を締結し、2月には本学でキックオフミーティングを開催した。また、これらの取組の中で、EU・日本双方における教育研修施設およびインターンシップ先相互訪問を行うなど、学生の派遣・受入のための体制構築を進めた。

	2019	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	0	0

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

本事業における日本人学生の派遣は2020年9月開始を予定しており、本年度においては、2020年度の学生募集に向けて募集要項を作成し、本学、駐日欧州連合代表部等Webサイトにて公開するなどプログラムの広報活動を推進した。

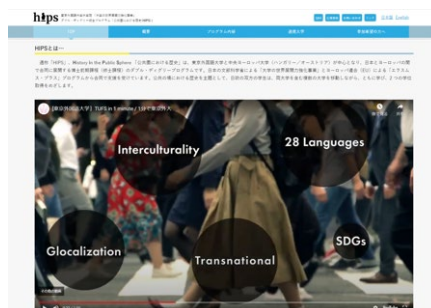
○ 外国人留学生の受入

本プログラムにおける外国人留学生の受入は2020年2月開始予定のため、本年度においては、中央ヨーロッパ大学と次年度以降の学生の派遣・受入数の取り決めを行った。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・10月から12月にかけて教職員をブダペスト・ウィーンに派遣し、EU側拠点大学である中央ヨーロッパ大学との協議を行い、1月にコンソーシアム協定に調印して、ダブルディグリー・プログラム実施の枠組みを整えた。

・外部有識者による外部評価委員会を設置し、事業の健全な推進に向けた意見聴取の体制を整えた。なお、3月に開催を予定していた第1回外部評価委員会は、COVID-19の影響により次年度に延期した。



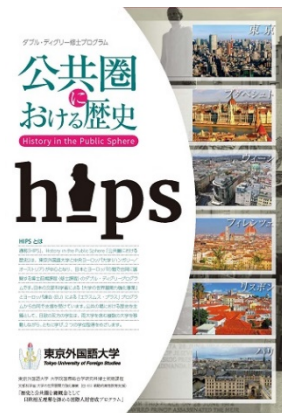
Webサイト「公共圏における歴史」および英語による本学紹介動画 (<http://www.tufs.ac.jp/hips/>)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・10月に学内外の学生に向けた本プログラムに関する第1回説明会を開催した。
- ・本学にプログラム実行委員会を立ち上げ、学生の派遣および受入に向けたコンソーシアム機関と本学の単位互換の調整を行ったほか、本事業の参加学生に向けた授業科目の選定を行った。
- ・本事業の参加学生が海外機関に滞在中も本学の教務手続きをオンラインで行えるよう、教務システムの改修を行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・Webサイト「公共圏における歴史」を立ち上げて本事業の取組を日本語と英語で掲載し、学生募集やイベント情報を発信できる体制を整えた。
- ・本学の特色を英語で紹介する動画を作成し本学、EU側コンソーシアムの両サイトで公開したほか、本事業のリーフレットおよびより詳細なパンフレットを作成し関係機関へ配布、上記Webサイト上でも公開した。



「公共圏における歴史」パンフレット表紙

■ グッドプラクティス等

- ・2月にコンソーシアム機関である中央ヨーロッパ大学、フィレンツェ大学および新リスボン大学より教職員を本学に招聘し、コンソーシアムのキックオフミーティングを開催した。ミーティングには本学のプログラム実行委員会教員も出席し、各メンバー機関のプログラムの方向性を調整したほか、各機関とその所在都市についての情報交換等と、本学周辺地域の視察を行い、周辺地域の「公共圏における歴史」に触れたほか、受入学生の日本におけるインターンシップ先候補地の視察を行うなど、次年度以降の交流の環境整備を進めた。
- ・11月に本学職員が、駐日欧州連合代表部が主催した“Erasmus+ Information Session”にて、本事業を含めた本学の Erasmus+ プログラムに関する取組状況の発表を行った。これを機にEUプログラムへの申請を検討している国内大学から申請手続き等に関する照会を受けており、本学の経験を随時共有している。

2. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



- ・コロナ禍により実渡航は派遣・受入ともに見合わせ、第1期生11名は9月から2月中旬まで中央ヨーロッパ大学(以下CEU)の、2月中旬以降は本学の授業を、オンラインで履修した。
- ・動画教材を作成し授業で活用した他、本プログラムに関心を持つ人を広く対象として学内外の研究者による公開講義等のオンラインイベントを開催し、「公共圏における歴史」という本事業の主題への理解を促進した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・東外大在籍学生より1名を選考した。学生は9月からCEUの授業を履修し、2月に行われた修士研究中間報告会にて研究成果を発表した。
- ・学生はCEUにおける学生代表の1人としてオンライン履修環境の改善等について教職員と意見交換を行うなど、プログラム運営に貢献した。

○ 外国人留学生の受入

- ・世界各地より10名がプログラムに参加し、2月から本学の授業を履修した。
- ・本事業参加学生のための集中講義を実施し、必修科目の基礎演習、アカデミックライティング、実習の事前研修のほか、複数の選択科目を開講した。

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	8	1
学生の受入	8	10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・4月よりコンソーシアム運営にビデオ会議を導入し、2か月に一度のペースでオンライン会合を実施した。これにより、日-EUの各大学教員間の連絡・連携体制が強化された。
- ・第1回外部評価委員会を7月にオンラインで開催した。事業1年目の点検と健全な事業推進に向けた意見を聴取し、指摘された課題の改善に努めた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・協定校および本学の教職員の連携により、オンライン履修の支援を行った。また、次年度以降のより円滑なプログラム運用に向け学生から質問や要望を聴取し、順次対応した。
- ・時差に配慮してオンデマンド型を併用したオンライン授業を実施した。同時に、渡航が可能となった場合に円滑に対面授業に移行できる体制を整えた。
- ・参加学生が海外からも必要な文献にアクセスできるよう、歴史分野に関連する英語の電子書籍を東外大図書館システムに拡充した。
- ・10月のプログラム開始に先立ち、参加学生に対する教育・生活面での支援を開始し、2月に本学での受入が始まるまでの期間にオンラインで支援・交流を行なう体制を構築した。



〈国内研修事前視察
(長崎、外海地区)〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本学ウェブサイトと連携して、事業ウェブサイトで説明会や公開講義等の情報を随時発信した。
- ・事業ウェブサイトにもオンラインで利用できる学修支援情報を拡充し、一部のオンライン講義については録画を公開している。また、これまでの活動履歴情報をまとめたアーカイブページを新たに作成した。
- ・情報配信希望者に対し、年間を通じてメールによる本事業の情報発信を行っている。
- ・事業パンフレットの日本語改訂版および英語版を作成し、学内外およびウェブサイト上での広報活動に活用した。

■ グッドプラクティス等

- ・授業内外でオンラインを活用し、説明会や学内外の講師による講演を年間を通して行った。これにより、本事業の主題への理解を促進するとともに、国内外の研究機関との連携を強化することができた。特に6月には、本学とCEUの教員によるシンポジウムを一般公開で開催し、EU側との連携強化にも繋がった。なおこのシンポジウムには学内外から70名が参加し、事業ウェブサイト上で録画も公開している。また、2021年6月には、コンソーシアム機関である新リスボン大学とフィレンツェ大学の講師による講演を行った。
- ・国内研修先である長崎を本学教員が訪問して、各地での事前視察・調整と教材作成を行った。これにより、オンラインでもプログラムを実施できる体制を強化した。また、長崎大学と明治大学の教員の協力を得て、オンラインによる事前学習講義を実施した。



〈TUFUS-CEU合同シンポジウム動画
(事業webサイトより)〉

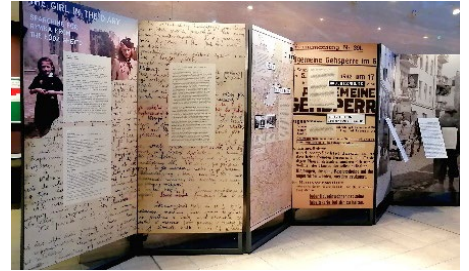
3. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【事業の名称】(採択年度 令和元年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

- ・9月から渡航を伴う学生の派遣を実施するとともに、受入については、コロナ禍の各国の状況と日本の入国要件を注視して対面・ハイブリッドへの移行も検討しつつ、プログラムの提供を行った。
- ・本プログラムの普及のため、学内外の研究者による公開講義や映像作品上映等のオンラインまたは対面のイベントを開催し、「公共圏における歴史」という本事業の主題への理解を促進した。



〈パネル展『リフカの日記: ウッチ・ゲットーの少女』〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・東外大在籍学生より2期生4名を選考、3名を9月から2/3月まで中央ヨーロッパ大学(CEU)へ派遣した(辞退1名)。
- ・令和2年度から参加している1期生1名については、9月からフィレンツェ大学(UniFI)へ派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- ・世界各地より2期生10名がプログラムに参加し、2月からハイブリッドで本学の授業履修を開始、3月から順次渡航を伴う受入と対面授業を開始した。
- ・令和2年度から参加している1期生10名については、渡航を伴う受入の可能性を模索しつつ、7月までオンラインによる受入を行った。2月からの第4セメスター渡航先として本学を選択した4名については、来日が可能になり次第順次来日するものとして、ハイブリッドでの受入を開始し、3月に1名が来日した。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	8	3
学生の受入	8	10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・コンソーシアムによるオンライン会議を2か月に一度のペースで開催し、教務、入試、質保証等に関し議論を深めた。これにより、日-EUの各大学教員間の連絡・連携体制が強化された。
- ・第2回外部評価委員会を8月にオンラインで開催した。事業2年目の点検と健全な事業推進に向けた意見を聴取し、指摘された課題の改善に努めた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・9月からの渡航を伴う派遣開始に向け、危機管理の指導等、渡航に向けた支援を行った。また、派遣中も、随時オンラインによる支援を継続した。コロナ禍の追加要件により奨学金の受給対象とならなかった日本人学生については、寮および航空券を本学が手配する等の支援を行った。
- ・前年度2月からオンラインでの受入となっていた1期生について、オンライン履修のためのサポートを充実させるとともに、来日に向けたシミュレーションと準備を行った。
- ・3月から留学生入国要件の緩和を受け、各学生の状況確認と準備を迅速に進め、来日できる学生から順次渡航を伴う受入を行うものとし、空港から本学への移動と一部学生の自主隔離、寮、保険加入、住民登録、銀行口座開設等の手配を支援した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

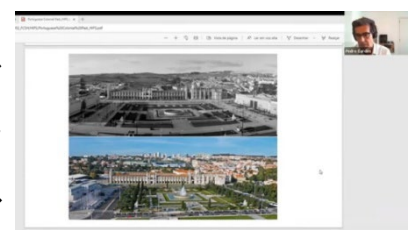
- ・4月に1期生11名が中心となり、応募を検討中の学生とのオンライン交流会、6月にはプログラムに参加する日本人学生が次年度以降の応募を検討する日本人学生に体験を語り相談などに応じる交流会を開催した。
- ・11月から12月にかけて、アフガニスタン情勢の歴史的・社会的背景、アラブの春や香港民主化運動などをテーマとしたオンライン講演会を開催し、学内外に公開するとともに、講師と学生の対話の機会を創出した。
- ・大学院進学を考える学生を対象に、プログラムの運営委員を務める4名の教員がプログラム内容を紹介する動画を作成し、大学公式YouTubeチャンネルにて公開したほか、情報配信希望者に対しては、年間を通じてメールによる本事業の情報発信を行っている。
- ・事業パンフレットの改訂版およびポスター、看板等を作成し、学内外およびウェブサイト上の広報活動に活用した。



〈プログラム紹介動画〉

■ ズッドプラクティス等

- ・6月に、コンソーシアムを組むUniFIおよび新リスボン大学(NOVA)の研究者3名をゲストとするオンライン・オープンセミナーを実施し、1期生11名、2期生候補者7名、次年度以降の応募希望者等18名が参加した。講演については、録画を公開したほか、コンソーシアム各大学にも提供し、EU側との連携を深めた。
- ・1月から2月にかけて、ポーランドのガリツィア・ユダヤ博物館から貸与された写真パネル展『リフカの日記: ウッチ・ゲットーの少女』を開催し、渡航ができなかった学生に現地博物館と同様の形態での展示に触れる機会を提供した。また、関連して、パネル展を共催した名古屋外国語大学の教員等4名の講師によるオープンレクチャー(5回)や映画上映会(3作品4回)を実施した。



〈NOVA & UniFIオープンセミナー〉